

# 地質学セミナー

## 石川県白山市中部に分布する手取層群と産する軟体動物化石

発表者① 大関仁智 (生物圏変遷科学分野 M1)

はじめに

手取層群は、富山県東部から福井県東部にかけて分布する中部ジュラ系～下部白亜系の堆積岩層である。本層群は飛騨帯および飛騨外縁帯の中・古生代基盤岩類を不整合に覆って分布しており、下位より浅海成層の九頭(くず)竜(りゅう)亜層群(中部ジュラ～下部白亜系)・陸成～汽水成層の石(い)徹(と)白(しろ)亜層群(最上部ジュラ系～下部白亜系)・陸成層の赤岩(あかいわ)亜層群(下部白亜系)に区分される。

本層群は白亜紀におけるテクトニックイベントや陸生生物の生態系の進化を知る上で重要な調査対象の1つとなっているが、陸成層を含む石徹白・赤岩の両亜層群の年代およびその層序については未だに議論の余地があるとされている。

調査の目的・手法

調査地である石川県白山市瀬戸野(瀬戸野地域)に分布する手取層群は多くの断層によってブロック化している。また、同県の白峰地域の層序との対比が困難であるとされ、本地域の層序もまた不明瞭なものとなっている。さらに、手取層群における放散虫や車軸藻等の微化石研究はわずかに数例に過ぎない。

本調査は瀬戸野地域に分布する手取層群の岩相、年代層序の確立を目的としており、野外調査の実施および採取した岩石サンプルからの軟体動物化石等の抽出を行う。

調査結果(進捗状況)

尾添川下流域では主に砂岩優勢の砂泥互層や礫岩層が分布しており、一部で緑色および赤色の流紋岩がみられる。砂岩泥岩互層内には断層が複数確認することができ、断層粘土と思われる未固結の細粒物質を含む。尾添川沿いの地層の走向は一定方向を示さない。互層中の砂岩および泥岩は主に塊状であるが、一部で平行葉理や斜交葉理、級化構造が観察されるほか、貝化石を含んでいる。

貝化石は印象化石となっているものがほとんどで、離弁のものがやや多く、一般的に層理面に沿って凸面を下に向けて配列しておる場合が多い。また、手取川との合流地点では厚さ1-3 cm程度の赤色の細粒砂岩と泥岩からなる砂泥互層が露出する。

現時点では尾添川沿いの露頭において *Viviparus* sp. や *Tetoria yokoyamai* (図1) 等含む貝化石数種類、高倉山林道の細粒砂岩からなる転石から *Myrene tetoriensis*, 林道東二口線の中粒砂岩からなる転石から *Podocarpus* (Geyler) sp. ? 等が得られている。

今後の予定

引き続き瀬戸野地域での野外調査を続行し、詳細な地質図の作成を行うとともに、大型化石を含む岩石からの有孔虫や珪藻などの抽出を試みる。

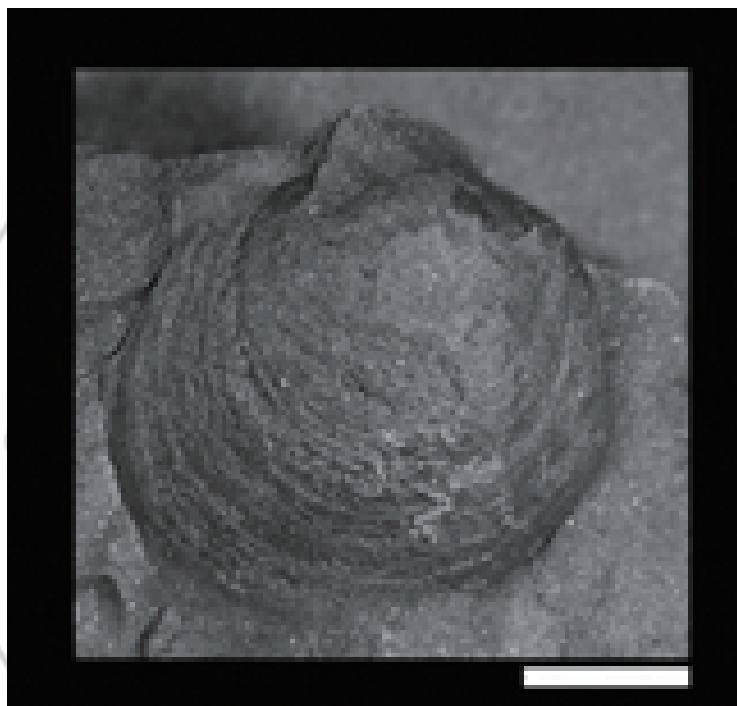


図 1 尾添川沿いの露頭より産出した貝化石

写真は *Tetoria yokoyamai* (ヨコヤマシジミ)。  
スケールは1 cm。